22

喫煙と皮膚疾患

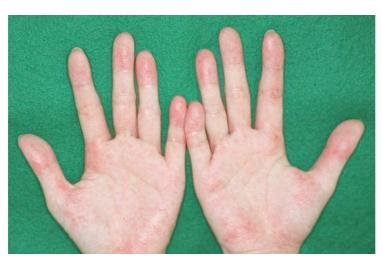
喫煙が皮膚へどの様な影響を及ぼすかについては、まだほとんど解明されていないのが現状ですが、統計学的には、喫煙との関連が指摘されているいくつかの皮膚疾患があります。 以下、その代表的なものを紹介します。

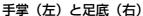
1. 掌蹠膿疱症

主に中年の手掌や足底に無菌性の膿疱を生じる慢性再発性の病気です。この病気をもつほとんどの人が喫煙者であることが知られています。

県立広島病院皮膚科のデータでは、 最近2年間にこの病気の治療に来られ た23人のうち、23人全員が喫煙者で あり、そしてこの病気が発症したのは 喫煙をはじめて10~30年くらいの人 が多かったことが分かっています。 この病気の根本的な原因はまだ不明であり、症状がひどくなると体や四肢にも膿疱や紅斑が生じたり、爪の変形や胸部などの関節痛が生じることもあります。治療には外用薬、内服薬、紫外線療法などがあり、これらの方法である程度よくなりますが、完治するにはかなりの年月がかかります。

写真はスモーカー(20本×10年) の女性(20歳代)にみられた掌蹠膿 疱症の例です。







2. 尋常性乾癬

主に中年の頭部や四肢、体などに、 鱗屑(りんせつ)を伴った紅色局面が 多発する、慢性再発性の皮膚の病気で す。この病気の原因や病態も今のとこ ろ完全には解明されていませんが、喫 煙者に多いことが指摘されています。

県立広島病院皮膚科のデータでは、 最近2年間にこの病気で治療に来られ た34人のうち、男性は90%、女性は 43%の方が喫煙者であり、やはりこ の病気にかかった人の喫煙率は高いという結果になっています。

尋常性乾癬の症状がひどくなると、 人によっては痒みが生じたり、爪の変 形が生じたり、関節痛を伴うこともあ ります。これらの症状は外用薬、内服 薬、紫外線療法などである程度よくな りますが、治療を中止すると再燃して くることがほとんどです。

写真はスモーカー(20本×29年) の男性(50歳代)にみられた尋常性 乾癬の例です。





体幹(左)と下肢(右)

行 徳 英 一